

岡崎駅東土地区画整理事業・シビックコア地区整備事業

まちづくり情報ひろば

公開
討論

パネルディスカッション

これからの岡崎駅東の街づくりを考える

討論者
パネリスト

中安 正晃 岡崎市副市長
志賀 為宏 出合いの駅おかざき推進協議会 会長
加藤 國男 愛知産業大学造形学部 准教授
大島 千枝 岡崎市シビックセンター セネラルマネージャー

司会・進行 小原 淳 出合いの駅おかざき推進協議会 理事
コーディネーター

日時：平成24年12月5日(水) 午後6時30分～
場所：岡崎市シビックセンター3階
(南部市民センター体育集会室)

岡崎駅東地区は、土地区画整理事業により旧来の木造密集市街地から、日本の大動脈ともいわれる東海道本線の主要駅を抱える岡崎市南部の市街地として生まれ変わります。

基盤整備が進行するなか、ハードとソフトの両面からどのようなまちづくりを行っていく必要があるのか、どのような街の姿に導いていく必要があるのかなど、この地区に関係する4名の方をお招きし、それぞれの立場から意見をいただく公開討論を行いました。



小原 淳
出合いの駅おかざき推進協議会 理事

小原理事

岡崎駅東土地区画整理事業は平成3年に着手され、以後、民間主体のまちづくり団体をいくつも発足させてきました。

そして着手から20年以上が経過し、その過程で様々な人が関わってきた結果、街がある程度の形にはなってきました。

そこで、これからのまちづくりについて、改めてみなさんと討論をしたいと思います。まずは、岡崎駅東地区の現状についてお願いします。

討論
1

岡崎駅東地区の現状について

中安副市長

岡崎駅東地区は、土地区画整理事業がほぼ終了しており、駅舎、駅前広場、幹線道路も完成しています。しかし、整っていてきれいだが静かな街だと感じます。昼間の人口や人通りも少ない。これから絵が描かれていく前の白いキャンバスのような印象です。

当地区はかつて、製造業を始め多くの工場が立地し、就業の地でした。しかし現在では、地域住民のための生活の場、住宅都市という印象です。実はこれは岡崎市全体についてもいえることです。数字で見ると、全国800弱の市の住みよさランキングという調査があり、岡崎市の総合順位は131位、中核市41市のうちでは9位でした。

指標別に見ると、安心度、利便度、住居水準充実度は低いですが、快適度は優れています。快適度は下水道や公園などの整備状況で判断され、中核市では5位。裕福度は市の財政力で同じく4位。安心度は医療や福祉の充実度で全国550位、中核市33位。利便度は全国427位で、買い物などの消費が名古屋に流れてしまう傾向があり、順位が低くなっています。住居水準充実度は、全国551位、中核市9位。持ち家率や一人当たりの居住面積などが影響するため、都市部ではどうしても低くなる傾向にありますが、それほど気にする必要はないと思います。



中安正晃
岡崎市副市長

住みよさランキング 2012

出典：東洋経済（都市データバック2010・2012年版）

中核市 順位	愛知県内 中核市	全国 順位	昼 夜 間 人口比率	総合評価 偏差値	安心度	利便度	快適度	富裕度	住居水準 充実度	(参考)2010年 全国 順位	偏差値
7	豊田市	122	108.94	52.99	366	597	137	10	547	30	55.84
9	岡崎市	131	93.13	52.77	550	427	48	56	551	66	54.52
17	豊橋市	252	98.24	51.27	420	455	155	108	598	156	52.79

※平成24年12月1日現在、全国の市は788（政令市を含む）、中核市は41です。

志賀会長

日々のなかで、短いスパンでは変化を感じにくいですが、長いスパンでは街の変化を実感しています。3か月後や半年、1年後に来社したお客さんからは「道が変わってしまっていて到着できない」という声を、開口一番よくいただきました。そういったなかで、改めて街の変化を実感します。例えば、自分の子は日々の成長の変化を感じにくいですが、他人の子はあっという間に大きくなってしまふ。そのような実感です。



志賀 為宏
出会の駅おかざき推進
協議会 会長

加藤准教授

以前は、製造業が主要な産業である都市に住んでいましたが、街なかにも郊外にも工場が立地しています。行きたいと思う店はなく、日常の買い物が済むとすぐに帰りたくなります。少し潤いが足りないのだと思いました。どちらかといえば通過する街という印象がありました。

岡崎の場合は、郊外に工場があり、そこへ行く人の流れは、街から郊外へと向かいます。街なかには伝統的な職種の店、太鼓や和ろうそくなどの昔から続けている店があります。料理屋さんやパン屋さん、ケーキ屋さん、ラーメン屋さんがある街なかなので、岡崎に買い物に来たときに「ちょっと寄り道してコーヒーでも飲んでいこうか、パンでも買っていこうか」という気になります。潤いがある街というイメージがあります。

岡崎駅東地区は、とてもものっぺりしたイメージです。昔の写真を見て比較すると、長屋のような集合した街並みがなくなって一戸建てが増えていきます。また、駅前には飲み屋さんが結構多いのですが、和菓子屋さん、肉屋さん、時計屋さんなどが、駅前に集積しておらず散在しており、駅前としては珍しい状況だと思います。東京郊外のどこにでもある駅のような感じがします。



加藤 國男
愛知産業大学造形学部
准教授

大島GM

近隣他都市と比較すると、岡崎には文化があると常々感じています。また、この地区は、地域の連携が非常にしっかりしており、地域の方々の繋がりが深いと感じます。



大島 千枝
岡崎市ビックセンター
ゼネラルマネージャー

毎年の夏祭りで、総代会を始め皆様がチカラを合わせてイベントをつくりあげる姿には、毎回すごいなと感じています。どちらかというベッドタウンであるこの地域での住民相互の助け合い風土は、日常生活でのチカラになります。ご老人の方々や子育て中の親御さんなどにとっても、お互いに適度な距離感を持って相手を気遣い合う土壌があることは、生きていくうえでとても安心できる大切なことだと思います。人と人との繋がり、独自のコミュニティが存在することが結果として住みやすい街につながるのではないのでしょうか。

さらにいえば、地元の人にとって住みやすい街ということに加えて、外の人から見て、行ってみたい街、人を惹きつける魅力ある街にできれば、より嬉しく思います。

小原理事

平成16年に、3つのキーワードから「まちづくりのコンセプト」を提案しました。

「まず私たちのための街・コミュニティであること」自分たちの街ということ意識する。

「安心して生活を営むことができること」安心ということを考える必要がなかった時代には、安心という言葉はなかったのではと思います。この岡崎駅東地区で安心して生活を営むことができるように、安心を切に願っているということです。安心度は、ランキング結果での全国順位も低いですね。

「次の世代に誇りを持って残していける美しい街であること」これらのコンセプトはわたくしが提言しましたが、このことはとても大切なことだと思います。この3つの考え方によって、わたしたち住民が街を創っていくと、人が自然に集まってくる魅力ある街になっていく。このコンセプトを出会いの駅おかざき推進協議会として8年間、掲げてきました。

これらのことを踏まえて、これからどのようなまちづくりを目指していくべきか、そのためにはなにが必要かについて、それぞれお願いします。

討論2 どのようなまちづくりを目指すべきか そのためには何が必要か

中安副市長

岡崎駅東地区は典型的なベッドタウンであり、外部から人が入ってくることが少ない空間です。このことを前提にまちづくりを考えていく必要があります。ベッドタウンのデメリットの一つは、飲食店や小売店の立地が難しいこと。特に飲食店。仕事帰りに「ちょっと一杯」というときは、職場の近くで済ますことが多いので、昼間の人口が少ない住宅街での立地は難しい。繁華街的な賑わいはあまり期待できません。しかし、まちづくりコンセプトの紹介がありましたが、「まず私たちのための街・コミュニティであること」、これは、ベッドタウンならではのことだと思います。

「安心して生活を営むことができること」、もし、自動車の出入りが激しい商業施設などが進出した場合は、渋滞や交通事故のリスクが伴いますし、繁華街や歓楽街となった場合は治安の不安があるかもしれません。安心して生活を営むことができること、これはベッドタウンのメリットです。

「次の世代に誇りを持って残していける美しい街であること」、繁華街的な賑わいではなく、お年寄り、子ども、主婦の方々などが利用できる地域の生活に密着したものが充実した街。子供が安心して遊べる公園など、きれいで上質な空間を創っていく必要があります。地域の方が利用できる日常に密着した物が買える、または、家族でちょっと歩いて行けるようなお店、こういったものをぜひ増やしていきたい。

また、地域のコミュニティを維持していくことが必要であり、そういった趣旨のイベントを開催していくことが必要だと思います。

住みよさランキングで、昼夜間人口比率が100を超えているのは外から人が入ってくる街です。100を超えている街には有名な街が多く、賑わいもあるのですが、住みよさの順位は高くありません。だから、むしろ、ベッドタウンだからこそ、住みよい街をつくることができると言えます。

まちづくりのコンセプト

- 1, まず私たちのための街、コミュニティであること
- 2, 安心して生活を営むことができること
- 3, 次の世代に誇りを持って残していける美しい街であること
- 4, 人が自然に集まってくる魅力ある街になること

『出会いの駅、おかざき』

志賀会長

ハードの充実も大切ですが、心の満足、充実も必要です。

お年寄りや小さなお子さんが安全安心に生活できる街、他の街の人があの街に住んでみたいと思う街にしていける必要があります。

常々、まちづくりは人づくりだと思っています。いま関わっているまちをもっともっと住みやすく良くしていくためには、関わっていく人を増やしていく。出会いの駅おかざき推進協議会は会員が約80名いますが、活動通じて、まちづくりができる人づくりができたと思っています。

もっと会員を増やして、まちづくりの勉強をしてアイデアを出していきたいと思っています。



加藤准教授

近年は高齢化率が高まっています。世帯当たり人口も減少し、世帯の高齢化も進んでいます。いままでのまちづくりは、道路や区画整理などのハードの傾向が強かったのですが、これからは人に重点を置いて、そこに住む人が人と人との繋がりの中で安心して老いていけるシステムをつくっていく必要があると思います。

また、工場が海外生産に移行していき、雇用という問題も発生しています。いままでは経済が順調で右肩上がりであるという前提で政策をやってきた。税収も下がってくるでしょう。これからは行政まかせではなく、住民自らがやらないといけない時代に入っていきます。困ったときにはお互い様ですね。相互扶助、押し付けではない、金儲けではない、お互い助け合うことで安心して暮らせる地域を創ることが必要です。他人のためにやっていることが結局は自分のためになるのです。

子育てが終わった世帯は、これから高齢者の夫婦だけになります。老老介護、独居高齢者、独居要介護者、独居認知症高齢者が増えるでしょう。ショッピングセンターに行くと、一日中何もせずに居続ける高齢者がいます。そういった方がわざわざショッピングセンターまで行かなくてもいいようなシステムがあればと思います。

たとえば、割安でお茶が飲めたり、惣菜のような料理が食べられたり、少量の野菜やお惣菜、佃煮とか煮物を買って帰ることができるようなお店。昼食の宅配もいいですね。ちょっと足が不自由とか、風邪など病気のとときに買い物に行けないで困ったという声もあります。

ある老人保健施設では、2階が老健で1階に有機野菜を使ったお惣菜のレストランがあって、お昼には毎日サラリーマンでいっぱいになるそうです。野菜も売っていて、認知症の人が楽しそうに販売しているそうです。そんなアイデアをすでに実行している地域が多くあります。

では誰がやるのか。定年を迎えても元気な方や女性でも料理が好きな方、そういった方々にやってもらうのもよいのではと思います。起業してもよいでしょう。

ずっと住み続けて安心して老人になっていける街。そんな街に岡崎がなれたらうれしい。人は人との関係の中でしか生きていけません。人との絆を強くするまちづくりをしていく必要があります。



大島GM

この街を笑顔のある街にしていけたらいいと思います。この地域でシビックセンターの果たす役割は大きいと思っており、日頃から3つのポイントが大切であると思っています。

「常に何か楽しいことがあると感じさせるワクワクする場所であること」「地元の方々が自主的に参加できる何かがあること」「お客様の視点に立ったホスピタリティあふれるサービスを提供すること」

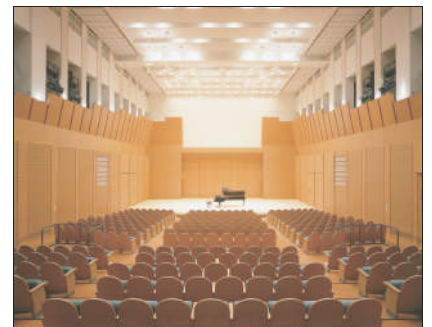
このワクワク感と地元参加とホスピタリティ、これがキーポイントですが、具体的にどうしたらいいのかといいますと、すべては場づくり。あとは住民の皆様で自由に広げていってもらえればと思っています。

広場事業のイベントでは、地元の子どもたちからシニアまで皆様が気軽に楽しめ、ここに来れば1日楽しく過ごせる、何か楽しいことがあって、他の人と話ができて、そういった場をつくることを目標に地元ボランティアを募り自らイベントに参加できる仕組みもつくりながら広場の事業を行っています。

最上階にはコンサート専用特別に音響設計されたホールがあります。これはとても貴重なホールなんです。そこで、「音楽の楽しみの場」をつくる。上質な半歩先の演奏会を心がけています。日本や世界を代表する音楽家の方々がこのコロネットでは演奏すると「なんていいホールなんだ」「素晴らしい」「また来たい」との感想をほとんどの方からいただいています。

まさに岡崎の宝なんですね。地元住民の方々にとっても誇りとなればと思います。この宝があることで市外からの集客も期待でき、地域での消費も期待できる。これは地元経済にとっても大切なことだと思います。

我々が今後やらなければならないことは、このコロネットをクラシック音楽に縁のない方にもぜひその存在を知っていただきたい。欲をいえばサポーターになってもらいたい。そのためには何をしたらよいか、ということを考えていきたいと思っています。そして最後に、一番大事なのは、いままでお話ししたようなことをがんばってやり続けることだと思っています。



コンサートホール『コロネット』

小原理事

日本の首都東京は、世界中から日本中から人が集まってきて街を創っているが、岡崎は岡崎の人たちが創っている。今日の討論を聞いてあらためて認識しました。

全国から人材が集まる市内の研究機関で、退職してからも岡崎に住み続けたいという方がいらっしゃいました。どうして岡崎かと聞くと、5年10年と住んでみて非常にいい街だと。いい街ってどういう街ですかと聞くと、文化があるとおっしゃる。「文化の街岡崎」もわたくしたちの目指すところではないかと思っています。

岡崎駅東地区の状況ですが、パネリストの皆さんの意見にもあったように、ちょっとさびしいですね。街を創っていく過程において、特に区画整理事業では、いままであった文化的な建物や広場、工場の煙突など、そういったものがある意味で新しい街を創っていくために入れ替えられる。これからこの街を創っていくということは、文化を創っていく、そういったことも目指していく必要があると思います。

日本全国の住みやすい街40位には、愛知県では、長久手市、日進市、弥富市、みよし市、東海市の5市が入っていますが、住みやすさの基準が様々であるということが分かりました。たとえ低いランクであったとしても岡崎にとっては住みやすい街、ランクが上位ではなくても「この街が1番」と満足できる街を目指す。

日本中世界中に誇れる街にしましょう。自然と人が集まってくる街、こういった街になったことが1番を満たしているとの考え方のもと、ここにいる皆様と地域の皆様で創っていくことが大切だと思います。

わたしゆめ★みんなのまちワークショップ

主催：出合いの駅おかざき推進協議会／岡崎商工会議所／岡崎市 協力：小原木材株式会社

まちに関わる一人ひとは、そのまちの構成要素でもあります。そのことに気づき、まちづくりへの参画意識をもつきっかけとなるよう、次世代を担う子どもたちを主な対象としてワークショップを開催しました。



【手順1】

どんな商売(仕事)がしたい？
どんな家に住みたい？などをイメージしてみよう！

家型木製ブロックに
着色して、イメージを
完成させよう！

【家型木製ブロック】

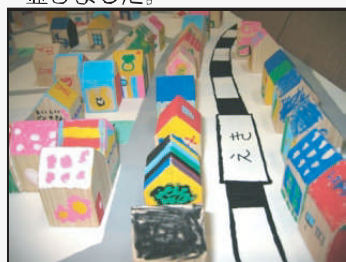


地産地消にこだわり、額田の
ヒノキ材を使って、地元の職人
さんが加工しました。
後世に残したい仕組みですね。

【手順2】



駅前には個性的な外観の商店が建ち
並びました。



フィールドはここ！
わたしたちの街をイメ
ージした仮想の都市です。
(182cm×273cm)



【手順3】

つくった家や店を
街のなかに置きます。

その商売はどこ
でやりたい？

どういう所に
住みたい？



スタッフが問かけると、
まわりの状況を見たり、友だ
ちと相談したり、他の建物も
気にしながら場所を決めてい
ました。

どうしてそこ
にしたの？

ほかの友だちは、工場の
近くの方が買ってくれそ
うだからって言ってたよ

みんながどこに置いたか、
気になります。



227名の夢が集まった街が完成しました。



岡崎駅東地区に防犯カメラを設置しました。



地域の方々が安全で安心して暮らすことができるように、また、この街にお越しいただいた方が安全で安心して滞在していただけるように、岡崎駅東地区に防犯カメラを設置しました。

この防犯カメラは、出会いの駅おかざき推進協議会が運用規定を作成して、カメラの管理や運用を行います。録画データは、原則として捜査機関等からの要請があった場合のみ、提供可否について判断することとしています。

同協議会が管理する出会いの市開催地には、すでに防犯啓発看板も設置しています。街の発展のとともに課題となってくる安全安心なまちづくりについて、同協議会、岡崎警察署、岡崎市など関係機関の連携により今後も対処していきます。



東口駅前広場に多目的トイレを整備します。



岡崎駅東口の自由通路下に、バリアフリーに配慮した多目的トイレを新たに整備します。

多目的スペースには、ベビーシート、オストメイト対応など、様々な方にご利用いただけるようにします。

また、より安全にご利用いただくために、防犯カメラも設置する計画です。

既設トイレは、新トイレの供用開始後に解体をします。

JR Okazaki Circumference Information Map

JR岡崎駅周辺 インフォメーションマップ

岡崎駅は、土地区画整理事業により交通利便性が高まり、日本の大動脈ともいえる東海道本線の主要駅でもあることから、地域の皆様の通勤利用のほか、出張や旅行などで訪れる方も増えています。

駅利用者の増加に伴って、地域の皆様や来街者の方々からは、「周辺の案内図がほしい」「飲食店の場所を教えてほしい」などのご要望が多く寄せられています。

こういったご要望にお応えするために、出会いの駅おかざき推進協議会と岡崎市が協力して、岡崎駅自由通路内の改札の正面にインフォメーションマップを設置しました。このマップには、公共・公益施設などとともに、周辺飲食店の情報を掲載しています。また、ポスター掲示スペースも確保しており、イベント情報やお知らせなどを随時掲示していきます。



発行日：平成25年3月

発行：岡崎市

企画編集：岡崎市都市整備部区画整理課
出会いの駅おかざき推進協議会
岡崎商工会議所

お問合せ先：〒444-8601 岡崎市十王町二丁目9番地

岡崎市都市整備部区画整理課計画班

電話（0564）23-6280

FAX（0564）23-5988

Eメール kukaku@city.okazaki.aichi.jp

岡崎市ホームページ：http://www.city.okazaki.aichi.jp/

